

令和4年度

「 高校生と語る会 」

卒業生を招き
島立ち後学ぶ

下甕・海星中

全生徒が卒業後に親元を離れる薩摩川内市下甕の海星中学校は夏休み登校日の19日、「卒業生と語る会」を開いた。恒例行事だが、新型コロナウイルス感染拡大のため、3年ぶりの開催となった。

寮での生活や進学先の高校の特色や勉強などをアドバイスしてもらい、「島立ち」後の生活のイメージを



つくることを狙い、その年の3月に卒業した数人を招き実施している。今年は鹿児島市の高校に進学した卒

業生ら7人が来校した。全校生徒24人が、久しぶりに再会する先輩の姿に喜びながら、真剣な面持ちで話に聞き入った。

1年生の吉郷光祐さんは「行きたい高校が増えた。今のうちから先生方の話をしっかりと聞き、勉強を頑張りたい」。3年生の植村騎琉さんは「高校での大変さや高校生活の楽しいことなどを聞くことができた。質問することもでき、今後の生活に生かしたい」と述べた。
(高嶺千史)

南日本新聞掲載【 8月25日 】